

# 会津美里町における市町村合併後の庁舎研究提案

A2201232 渡辺麻里枝

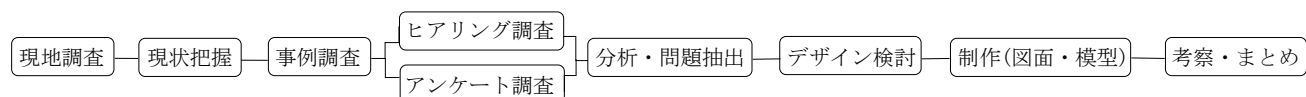
## ●研究の概要(背景)

平成の大合併の影響を受け福島県では平成 16～20 年の間、13 市町村が合併を行った。その中の 1 つの会津美里町は平成 17 年、会津高田町・会津本郷町・新鶴村が合併し誕生した。その会津美里町は今でも 1 つにまとまった本庁舎はなく、それぞれ既存の庁舎で本庁舎の機能が分かれた行政運営体制がとられる、分庁方式で運営されている。しかし高田庁舎は既に老朽化し、耐震性も劣ることから会津美里町に新合同庁舎を建てる計画が検討されている。13 市町村が合併を行う中、会津美里町のように分庁方式で運営していた田村市は平成 24 年に合同庁舎を着工し、平成 26 年に完成する予定である。合併特例債という地方債の発行があり、合同庁舎を建設する踏み切りがしやすくなっている状況にある。しかし、本郷・新鶴の旧庁舎は新しく、今ある庁舎を使い続けたいという要望もあるが、実際調査を行った結果、それらの一角の議場等は資料置き場など倉庫としての役割になってしまっており、本来の役割でない使用をされている。そこで庁舎整備を検討し、提案する。

## ●研究のねらい

市町村合併が進められた会津美里町の庁舎整備の研究をするとともに、会津美里町にふさわしい庁舎の在り方を提案する。また庁舎周辺環境の公共施設などの住民のための施設がどのように利用されているか調査し、庁舎に生まれている空きスペースなどの有効利用等を検討する。

## ●研究のプロセス



## ●調査・分析

### ○訪問による庁舎の現状把握

会津美里町の高田庁舎・本郷庁舎・新鶴庁舎の 3 庁舎を訪問し、それぞれの庁舎がどのように使われているのかなど調査した。

会津美里町の本庁舎である高田庁舎は建設から 50 年が経過し老朽化は著しく、耐震診断では早急に改築・取り壊しが必要であり、すぐにでも建て直さなければ次に地震がきたら倒壊するおそれがありうるそうだ。2 階は歩くだけでぎしぎし音がなり、危険なことが身をもって感じられた。しかし高田庁舎は 1 階の窓口の部分が無柱空間の構造形式・ファザードのプロポーションの美しさ・軽量鉄骨の使用、など約 50 年前の建築としては珍しい庁舎建築となっている。



本郷庁舎は平成 6 年に建てられた新しい建物だ。ここでは新しい議会室は全く使われておらず、ほかの機能を失った部屋も倉庫としてしか使われていなかった。また、放置されていたため配水管からの刺激臭がした部屋もあった。

会津新鶴庁舎は平成 10 年に建てられた 3 庁舎の中でもっとも新しい庁舎だ。本郷庁舎と同じように新鶴庁舎でも新しい議会室は全く使われておらず、ほかの機能を失った部屋も倉庫としてしか使われていなかった。しかし、本郷庁舎との違いとして議会室が教育委員会の生涯学習課の郷土資料をおく部屋になっており、資料が山積みになっていた。そこでは職員の方に平成 24 年、会津美里町は庁舎の課の組織替えを行い生涯学習課がこの新鶴庁舎が割り当てられたため 3 庁舎の多すぎる資料をおくスペースが足りなくなり、議場を倉庫にしてしまうことになった、というお話を聞いた。この調査から新しい 2 つの庁舎の空きスペースのことも考慮しなければならなかった。

▼高田庁舎



▼本郷庁舎



▼新鶴庁舎



▼新鶴庁舎の議場の現状



## ○アンケート調査

会津美里町の合併による影響・町内の公共施設についてアンケートを作成し、美里公民館で行われたまちづくり学習会に訪れていた住民 20 名の方々にアンケートを実施した。居住地域は高田にかたよってしまったが、年齢は 20 代から 70 代の幅広い年代の方の回答を得ることができた。合併後「便利になった」あるいは「不便になった」ことなど、変わったことはあったか、という質問では、回答が同じくらいの割合であった。次に「分庁舎方式」「本庁舎方式」、どちらを望んでいるか、という質問では、これも本庁舎方式が多少優勢ではあったが回答の割合はだいたい同じであった。分庁舎方式を望む方の意見として、地方自治に強そう・あまり離れていると不便である・地域の核が必要だから、などからこれまでの生活を変えたくない人はこちらを選択していると考えた。

本庁舎方式を望む方の意見として、1ヶ所で用が足せる・内部連携をとりやすくすることで、サービスの向上が図られると思うからなどという意見があり、高田に本庁舎を置くことが適切という回答が多く、既存の庁舎を本庁舎として利用することを望んでいる人は本郷庁舎か新鶴庁舎どちらかを望んでいた。場所はやはり人口が多く、美里の中心の大通りがある高田が場所として選ぶ人が多いが、比較的新しい本郷と新鶴を存続の利用で選ぶ人が多かった。公共施設利用についての質問では、日頃使用している施設に図書館・公民館があるのにもかかわらず、足りないと感じる施設に図書館、老朽化が進んでいる施設に公民館があげられていた。

▲配布したアンケート

## ○まとめ

訪問・アンケート調査のほか事例調査、分庁舎・本庁舎方式の違いを考慮した上でこれからの会津美里町にあった庁舎のあり方を考えた結果、高田庁舎の老朽化から本庁舎の建て替え・議場を中心とした本郷・新鶴庁舎の空きスペースの提案が必要であると考えた。

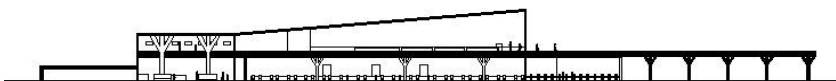
## ●提案

### ○新庁舎のデザイン提案

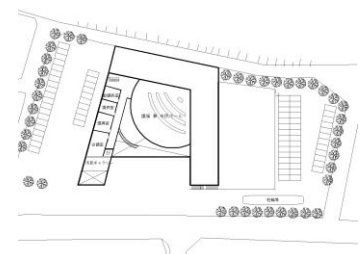
本庁舎方式の提案として高田に庁舎を建設する計画を進めた。建設地を二本柳運動公園に設定した。理由として現在ある場所からそれほど離れず、敷地も十分、商店街から近く、広い道路沿いにあることで場所がわかりやすくなることだ。町民に開かれた庁舎をテーマに念頭に置き、普段市民ホールとして開放される議場・市民ギャラリースペース・地元の特産品を買うことのできる売店・イベントを開くことのできる屋上を設けた。屋上には川原側からも動線をつくっている。全体的に吹き抜け空間をつくり、開放感あふれる庁舎を目指した。



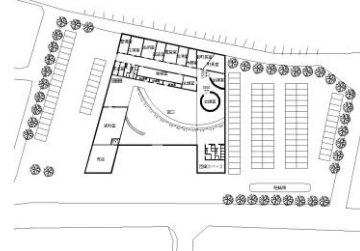
▲立面図



▲断面図



▲平面図 2F



▲平面図 1F

## ●考察

この研究で庁舎の方式などの庁舎についての知識が深く身についた。今は庁舎が市民のための施設と併設されているところが多く驚いたとともに、地方によって庁舎のあり方は大きく違うことがわかった。自治体を広域化することによって行財政基盤を強化し、地方分権の推進に対応することなどを目的とする平成の大合併後、会津美里町と同じように庁舎について問題を抱えている事例は多くあり、地方ごとに解決策を生み出しているところもあるが、過疎地域における空きスペースをうまく活用していくことの難しさを感じることができた。財政などの大きな壁はあるのは事実だが、行政は町民の意見を積極的に取り入れ、有効活用される公共施設を整備していくべきだと深く感じた研究だった。